

今月の安全運転管理

守ろうよ 交通ルールと子供の笑顔

①子供との事故防止を指導

- 子供の行動特性を理解しよう
- 家庭での交通安全教育を推進しよう

②高速道路での事故を防ぐ安全管理

- 事故や故障時の対応を理解させよう



子供の行動特性を理解しよう

愛知県警によると、平成二十七年から令和元年度までの五年間に、県内において交通事故で死傷した小学生は五、六二人、月別では八月が最も多くなっています。そこで事業所では、子供の行動特性を理解させ、事故防止指導を強化してください。

子供の行動で最も注意する必要があるのが「飛出し」です。子供は、道路の反対に友達など興味をひくものを見つけた場合、安全を十分に確認せずに横断する特性が見られます。

そのため、子供が道路脇で遊んでいるときや道路の両側に子供がいる場合などは、子供の飛出しを予測することを指導してください。

また、子供は、遊びに夢中になると車に対する注意が

欠けるといった特性も見られます。そういった特性から、子供が集団でいる場合は、子供の動静を注視して慎重に走行することを、毎日の朝礼や点呼時に呼び掛けてください。

家庭での交通安全教育を推進しよう

事業所にとっては従業員の家族も大切な存在です。従業員に、子供を交通事故から守るため、家庭での交通安全教育の実施を推進しましょう。

例えば、通学路や家の周りなどを子供と共に歩き、子供の目線で、危険な場所や道路の安全な通行方法、横断の仕方を具体的に教えてあげることがおすすめです。

一度限りではなく、散歩や買い物に行く時間を利用して、身に付くまで繰り返し教えてあげることが大切です。

高速道路を安全に走行するためのポイントを指導しよう

NEXCO中日本によると、高速道路上での思わぬ停止車両や人に衝突する事故が多発しています。

八月はお盆休みの帰省などで高速道路を利用する機会が増えることから、従業員に、高速道路上で事故・故障等で停止してしまった場合の対処方法を指導してください。

- ・本線路肩を歩き回らない
- ・ハザードランプ、発炎筒、停止表示器材で後続車に合図

- ・自車より後方のガードレールの外側など安全な場所に避難

- ・二〇番または非常電話・道路緊急ダイヤル（#九九〇）で通報

あわせて、休み前の従業員に、改めて一言掛けるなども実践しましょう。